Koeki-U. News（仮）

第2号

[春の公益大と鳥海山]

[目次]

●学長挨拶 …1
学長 吉村 昇

●大学教育再加速プログラム採択 …2
学部長 神田 直弥

●研究紹介 …3
特別招聘研究員 玉本 英夫

●著書紹介 …4
准教授 狩野 晃一

●キャリア開発センター通信 …5
センター長 國眼 眞理子

●NEW＆TOPICS …6

●平松元学部長へ名誉教授称号授与 …8

If winter comes, can spring be far behind?

冬来たりなば春遠からじ

学長　吉村　昇

2017年を迎えて早くも2ヶ月が過ぎました。国際化や社会貢献をキーワードに推進してきたアクションプラン「第1期吉村プラン」(2014年度～2016年度)も、この3月で終了となります。4月からは「第2期吉村プラン」を開始し、公益大の教育改革もいよいよ第2章の幕開けとなります。

第1期吉村プランでは、皆さまのお陰で様々な成果を挙げることができました。大きな進歩としては、学部の学期を2学期制（セメスター制）から4学期制（クォーター制）に移行したことにより、中・長期留学がしやすい環境を整えました。留学先の単位を東北公益文科大学の単位に認定するなど制度改革に取り組んだ結果、留学に挑戦する学生数が飛躍的に伸びています。2016年度は中国やロシア、米国で7人が中・長期留学を経験し、現在も3名（ロシア1名、中国2名）が留学中です。全体では42名の学生が長・中・短期の海外留学に羽ばたいています。

海外大学との学術交流協定も積極的に進めました。中国の河南師範大学、米国のクレイトン大学、台湾の世新大学と新たに協定を締結しました。今後、10校との協定締結を目標に取り組んでいきます。学生の留学を進めるのと同時に海外からの留学生受け入れ環境の整備にも努め、現在は学部と大学院に計9人の留学生が学んでいます。

さらには、本学のグローバル教育を地域へ還元するために、高校生を対象とした「グローバルセミナー」を平成27年度より実施しています。

この3年間の間に、教学改革の推進力を高めるため、学長をリーダーとする「大学戦略会議」を立ち上げ、学生を中心とした5つのセンター(教育・学生・キャリア・地域貢献・国際)の機能を強化しました。結果として文部科学省28年度「大学教育再生加速プログラム（AP）」の採択や、山形県から大学院への寄附講座「アジアビジネス人材養成講座」の開講に繋がったことは、大きな成果といえます。

本学はこの4月から「第2期吉村プラン～庄内から日本の教育を変える大学づくり～」を実施します。28年度に採択された「大学教育再生加速プログラム（AP）」を中心に、公益大の教育力をさらに高めます。目指すのは能力の高い学生の力を伸ばし、大きく飛躍させ、伸び悩む学生もしっかり底上げできる教育です。学生を社会人として一人前に成長させ、地域に必要とされる人材を育てます。

新たな取り組みとしては、激変する情報化社会に対応し、地域創生に貢献できる文理融合型の人材育成として、今までの「情報特別選抜」を新たに「メディア情報コース」に進化・発展させます。このコースでは地域のIT人材育成、IT起業家の育成を目指します。

「第2期吉村プラン」の実行でさらに飛躍し、日本の高等教育の新たなモデルとなるような先進的な大学づくりを目指します。新しいビジョンを基に大胆な改革に挑戦し、教職員一丸となり、学生と地域の未来のために頑張っていきましょう。

文部科学省 大学教育再生加速プログラム（AP）採択される

テーマⅤ 卒業時における質保証の取り組みの強化

今回の採択により、本学の教育システム、学生の学修環境がどのように変わるのか事業推進責任者である神田学部長からお話しを伺いました。

区 分	申請件数	選定件数
国立	34	6
公立	9	2
私立	**73**	**11**
合計	116	19

昨年7月28日に、平成28年度文部科学省 大学教育再生戦略推進費「大学教育再生加速プログラム」（通称AP）テーマⅤへの本学の採択が発表されました。申請件数116件のうち採択されたのは19校であり、採択率は16.3%という大変狭き門でした。本学が採択されたのは、吉村プランに基づく教育改革について教職員が一丸となって取り組んできた結果に他なりません。熱心な教育は本学の特色であると改めて実感しております。

テーマⅤの目的は「卒業時における質保証の取り組みの強化」であり、これまでのⅠからⅣの各テーマを総括するものです。本学では、APのテーマⅠからテーマⅣに相当する取り組みをすでに実施しています。また、テーマⅤに関連する取り組みも、一部はすでに実施しています。今回の申請により新たに事業を行いますが、これらを含めて本学の取り組みを整理したのが以下の図です。APの各テーマとの関連をローマ数字で、新規事業を黄色で示しています。新たに行う事業のうち、「ポートフォリオ公開」「ラーニングコモンズ(図中では学修支援センター)の設置」は、意欲の高い学生の目標設定や取り組み状況を参考にする機会や、相互に学びあうことができる場を提供します。「ルーブリック開発」は、ディプロマポリシーに定めるスキルの獲得状況について、より客観的な評価を可能とします。「アセスメントテスト」は外部業者のテストで、学生が自己の基礎学力や社会人基礎力について現状を把握することに加え、開発するルーブリックの妥当性評価に用います。最後に「卒業時の学修成果提示」について、文部科学省からはディプロマ・サプリメントの開発を求められています。これについてはテーマⅤの採択機関において議論を開始したところです。

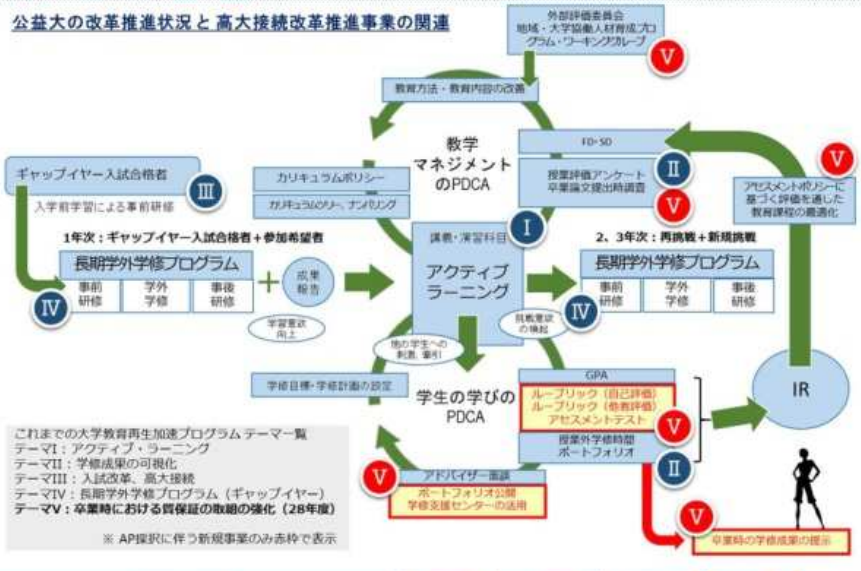
AP事業は卒業時の質保証を行うための評価の仕組みの構築や学習機会の提供が中心になっています。評価を通して学生の学修活動のPDCA、教学マネジメントのPDCAを回していくことにより、教育課程の最適化や卒業時の質保証が実現されます。AP採択校として他大学のモデルとなるよう、教職員一丸となって事業を推進していきましょう。

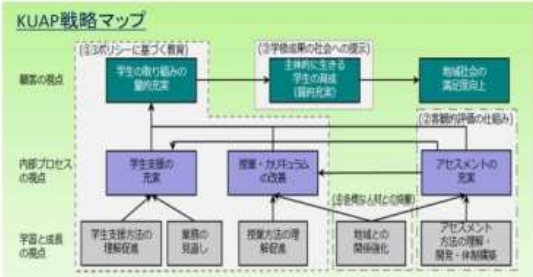
平成28年度「大学教育再生加速プログラム」選定取組

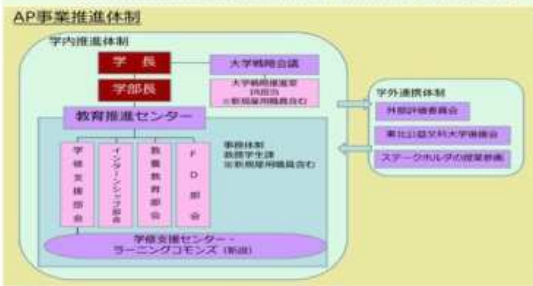
大学教育再生加速プログラム

大学等名：東北公益文科大学
テーマ　：テーマⅤ（卒業時における質保証の取組の強化）

取組概要
- **コーチング法**を用いたアドバイザー面談に加え、身近なモデルを提供する**ミラーリング法**の導入により、学生自身の振り返りや目標設定を充実させる
- **学修支援センター・ラーニングコモンズを新設**し、成績が振るわない学生の学修機会や意欲の高い学生が共に学びあう機会を提供する
- 導入済みのアセスメントツールと新規に導入するアセスメントツールを有機的に関連づけ、学修成果を客観的に評価・可視化する
- 学修目標や学修状況、アセスメント結果、振り返り等を蓄積し、**目に見える形で社会に発信可能なポートフォリオを新規に開発**し、在学中に活用することで学生の質的充実を図る
- **ステークホルダと緊密に連携**し、育成すべき人材像を明確にすると共に人材育成の評価方法の開発や評価の実施を共同で行う







[事業の成果]	27年度（実績値）	28年度（目標値）	29年度（目標値）	31年度（目標値）
学生の授業外学修時間（1週間当たり）	10時間	12時間	15時間	20時間
卒業生追跡調査の実施率（調査回答者数／卒業者数）	—	10.0%	15.1%	25.3%
進路決定の割合（正規雇用・進学者数／卒業者数）	94.5%	95.9%	96.5%	98.4%

★期待される取り組みの効果★
1）自身の成長実感が加速し学修の主体性が向上する（学生）
2）授業外学修時間が増える（学生）
3）GPAが向上する（学生）
4）大学教育満足度があがる（学生）
5）学位プログラムが最適化される（大学）
6）進路決定率が向上し就職先企業の満足度が上がる（社会）

研究紹介インタビュー　　玉本 英夫　特別招聘研究員

『 情報技術を用いた民族芸能の舞踏の伝承技術』

「民俗芸能の豊かな東北の地が急速な過疎化・少子高齢化を迎え、その伝承が危機を迎えている。民俗芸能を守るのは地域だけではなく、興味・関心のある地域以外の人たちも協力し合い、皆で伝承していくことが重要だ」と熱く語る玉本先生。

ここまで熱く語るのは、先生の長年に亘る民俗芸能を残すための研究に注いだ時間と情熱からだ。

玉本先生が最初に民俗芸能に出会ったのは、半世紀ほど前、大学生のときの大学祭。秋田県仙北市（旧田沢湖町）にある『わらび座』の民俗芸能の踊り。その時は「すごい」の迫力と驚きから興味を持った程度であり、研究テーマにするとは全く考えていなかった。40年前に大学の教員になってからは、LSI（集積回路）の故障診断の研究をメインに行っていた。

転機は1998年に訪れ、『わらび座』関係者、秋田県工業技術センター関係者が玉本先生を訪ねてこられ、「民俗芸能の舞踊りの伝承に役立つ記録・保存技術の開発を一緒にやってもらえないか」と依頼があったことがきっかけ。

その後、民俗芸能の踊り（以下、踊り）とIT（情報技術）をどう融合させ記録として残すかを話し合い、従来は紙への記録、映画、ビデオ映像など2次元の記録であったものを、当時まだ珍しかったモーションキャプチャー（以下、MoCap）を使用して3次元で記録することを考え、踊りのデータ化に着手。MoCapの仕組みとしては、当時、光学式、磁気式、機械式の3種類が主流で、その中から磁気式を選択した。理由は、光学式は体などでカメラから隠れたセンサーの動きを記録することは難しいが、磁気式であれば体などで隠れたセンサーの動きも磁気であるため感知し記録することができるからであった。早速、この装置を『わらび座』内のスタジオに設置し、踊りの記録を行う。しかし、体・腕・足の動きのデータは記録できるが、踊りの演技において重要な要素である手指の動きのデータを記録することは難しかった。

そこで、吉村学長の研究グループが世界に先駆け開発した手に装着し指の動きを記録できるMoCapを新たに使用したことで、繊細な手指の動きのデータも記録することが可能となった。

これらの仕組みを使用し、秋田県内の踊り『秋田音頭』をはじめ各地の踊りを記録し、DVDで製品化したものもある。

現在、玉本先生は山形県特に庄内の民俗芸能『黒川能』に大変興味をもたれ、次世代に残すべき民俗芸能として記録を残すことに取り組んでいる。

MoCapも今までの磁気式から慣性センサー式へと新しくした。この装置の導入により、より小型で、場所を選ばずデータを記録することができるようになり、活用の範囲を含めデータを採取する地域が広がった。

玉本先生は、MoCapのデータと最新の3DCG 技術を用いてよりリアルに踊りの動きを再現すること、また、各地の踊りをバーチャルリアリティ（VR）技術を用いてバーチャル空間に再現、いわば、踊りのバーチャル舞台をつくり、いつでもどこでもあたかも踊りが演じられているところで踊りを観たり、踊りに参加したり、たくさんの人で祭りの雰囲気を共有できる新しい伝承の仕組みづくりを考えている。

今年度、玉本先生は卒論作成の学生と一緒に、たくさんの人がバーチャル舞台づくりに参加できるように、簡易に踊りのバーチャル舞台を実現する研究を行ったそうである。たくさんの人がバーチャル舞台づくりに参加することができ、新しい伝承の仕組みづくりに役立ちそうとのこと。また、別の卒論作成の学生が、MoCapを使って和太鼓演奏時の体と撥の動きを記録して、3DCG技術で体と撥の動きを再現し、体の動きの解析を行った。このことが新たに民俗芸能である和太鼓の演奏技術の伝承に役立てられる方法を提案するきっかけになったそうである。

玉本先生の今一番の悩みは一緒にデータ収集、開発を行ってくれる人がいないこと。一人では限界があり時間が足りず目的の達成が難しくなっていることである。

著書紹介インタビュー　　狩野 晃一 准教授

『完訳中世イタリア民間説話集』

今回翻訳した作品は13世紀のイタリア、トスカーナ地方でまとめられた*Il Novellino*（『イル・ノヴェッリーノ』）というもので、前回の『シチリア派恋愛抒情詩選』と同様、中世ラテン文学がご専門の瀬谷幸男先生と共訳という形で出版しました。タイトルは『完訳中世イタリア民間説話集』（論創社、2016年）です。全100話から成る物語・説話集ですがそれぞれの話の間には直接的な脈絡はありません。題材は様々なところから採られていて、例えばフリードリッヒ２世、中東のスルタンの話、英国のリチャード王などが繰り返し話に登場し、当時の人々の間での人気の高さが窺えます。また教訓的な話やオチがある落語近いものまでヴァラエティに富んでいて、民衆はそれらを聞いたり読んだりして楽しんだものと思われます。

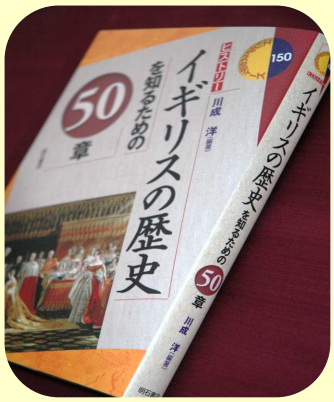
私はもともと英語の文学や歴史を専門にしていますが、特に中世の英文学をやるとなると、どうしても当時のヨーロッパ大陸の文藝文化にも目を向けなければなりません。そういった意味で中世イタリア文学に関わるようになりました。とりわけ私の研究テーマの一つでもある英詩の父と呼ばれるジェフリー・チョーサー（Geoffrey Chaucer, c.1340～1400）は文学上の伝統の影響を大陸から色濃く受けており、彼の作品を読み解くうえで、どうしても中世イタリア文学（及び中世フランス文学）の理解が不可欠なのです。解題とあとがきの後半を読んでいただければ中世英文学をやっている私がイタリアものに取り組む理由を少しはわかっていただけるかと思います。

翻訳本の今後の出版予定については、2015年に出版した『シチリア派恋愛抒情詩選』がイタリア語（ラテン語ではない俗語）でまとまって書かれた最初の韻文の翻訳本であり、今回の本はイタリア語による初期の散文で、それらを日本の読者に現代の日本語で読めるようにしたということは大きいと思います。

中世イタリアの作品あるいは中世ラテン語作品で英文学に影響を与えた作品は少なからずあるので、それらも視野に入れたいと考えています。

今回の作品は、どれも短編で大変読みやすく、内容も幅広く、広く学生から一般の方まで楽しく読める本です。時折、作品が短すぎて何をいっているのか不明なものもありますが、読み方に規則はありません。どこからでも好きなように読んでいただければ幸いです。歴史的な知識があれば、史実とのズレなどにも気がついたりして、より深く広く楽しんでいただけるのではないでしょうか。

私の今後の発表等の予定は、翻訳本で現在手掛けているものは幾つかありますが、主なものは①科研費で行なっている中世英語の発音と綴り字の関係についての研究、②13世紀の英語で書かれた宗教散文の言語に関する研究書の執筆及び編纂、③初期中英語期の抒情詩の翻訳、④中世イタリアの女性詩人の作品の翻訳などです。日本では有名な作品の翻訳はたくさんありますが、それらを取り巻く小作品はなかなか翻訳されない状況にあります。実はその様な小さな作品の中に非常に重要なものが含まれていることがしばしばあります。そういったものを世に出してあげられればと思っています。とにかく中世を扱うには書かれたものしか残っていません。言語研究をするにしても広い意味でのliterature（書かれたもの）を読まなければ始まらない。私のやっていることは一見バラバラの様にみえるかも知れませんが、実は切っても切れない関係にあることがおわかりいただけると思います。



狩野准教授が一部執筆された書籍「イギリスの歴史を知るための50章」、先生の担当箇所は第Ⅰ部の2と3で、それぞれ「ブリテン島のローマ人」(pp. 22-27)と「アングロ・サクソン人のイングランド」(pp. 35-40)

キャリア開発センター通信

教　職　員　の　皆　様　へ

キャリア開発センター長　國眼 眞理子

皆様には日頃より本学のキャリア教育・キャリア支援にご理解とご支援をいただきありがとうございます。今年も早1ヶ月を経過し、3年生の就職活動が本格化してまいりました。ちょうど本日（1/20）も金融業界についての業界研究会が学内で実施されております。今後も引き続き各業界の説明会を開催するとともに、3月14日（火）より16日（木）の3日間、本学学生の採用実績がある企業様や採用に意欲的な企業様計115社に参加いただき学内合同会社説明会を実施することにしております。ぜひ3年生の皆さんには参加するようにお声掛けを頂ければ幸いです。

昨今、新聞・テレビ等マスコミでは、「売り手市場」「人手不足」という言葉が頻繁にささやかれており、大学卒業者の有効求人倍率は2017年3月に卒業する現4年生の場合で1.74倍と、昨年度1.73倍に続き好調を維持しております。ただ学生の皆さんには「就職セミナー」（正課科目）、「就職力強化セミナー」（課外講座）において伝えているところですが、この数値は「就職先を全く選ばなければ」という前提であり、一人の就職を希望する学生に対して1.74社が求人を出しているということを意味しております。実際に選ばないということは考えにくく、実際には例年同様決して楽な就職活動ではないということを、皆様と共有したいと存じます。また有効求人倍率は業界や企業規模によってかなり異なりますので、是非最新の情報に触れるために学内外の様々な講座や説明会を積極的に活用してほしいと願っております。

3年生の皆さんの就職活動は、現4年生と同様のスケジュール、すなわち3月から就職採用情報の公開、6月から選考開始となります。

ただここでご注意願いたいのは、エントリーシート・履歴書等の提出、筆記試験等は選考とはみなされておらず、6月より以前から実施している企業が多いという事実です。6月からの選考とは、就職希望者のうちから一定数に絞った後の採用面接などを意味します。「6月から採用試験が解禁だからまだまだ時間がある」「そんなにあわてなくても間に合う」と静観しておりますと、活動を開始したときには志望企業の選考は進んでいて試験を受けられないという事態も想定されます。くれぐれもそうした事態にならぬよう、今の時期から志望業界・志望企業等の情報を積極的にとりに行くという姿勢が必要です。

3月1日に採用情報が解禁されますと、一斉に各地で合同会社説明会が開催され、その後すぐに個別の会社説明会が始まります。そしてそれを踏まえて3月ないし4月にエントリーシートの提出が求められます。春休み中とはいえ、かなり忙しい日程になります。アルバイトのスケジュール調整も欠かせません。今のうちに、例えばエントリーシートのひな型を作成しておくことや業界研究・企業研究などをしておくことを勧めてください。

大学生の就職活動は自分から動くことが肝心です。ただほとんどの学生にとっては初めての経験です。迷ったり悩んだりすることも多いと思います。そうしたときぜひキャリア開発センターを利用するよう伝えてください。今後の就職活動を通じて、学生の皆さんが希望する進路を実現できるよう支援してまいります。

公務員採用試験に合格した先輩と語る会

就職力強化セミナー『グループディスカッション講座』

News＆Topics

2016.10.1～12.31

10/22_23 『公翔祭』-東京女子流-

10月22、23日『公翔祭』（東北公益文科大学大学祭）が開催されました。22日はNHK山形放送局の協力で元全日本女子バレーボール代表高橋 みゆきさんをゲストに『NHK大学セミナー高橋みゆき講演会～スポーツの力～』を公益ホールにて開催しました。23日はエイベックス所属「東京女子流」をゲストにスペシャルライブを公益ホールで開催し、学生をはじめ300名近い来場者で大いに盛り上がりました。その他、教室を使用したお化け屋敷やサークルなどによる模擬店などが大変好評でした。

10/28 『模擬体験を通じた実践的学習』①

10月28日、斉藤ゼミ3年生8名が酒田税務署にて税務事務について模擬体験学習を行いました。初めに申告納税制度の説明を受け、申告書の作成実習を行いました。
その後架空企業の確定申告書をもとに税務調査実習を行いました。講師の野口酒田税務署長の説明は税務大学校の教員をされてこともあり大変わかりやすく、学生たちも内容は難しかったが大変わかりやすく、理解できたとの感想でした。
　さらに、税務署職員の方からアルバイトの源泉徴収票の見方についても詳しく教えてもらいました。

11/4　県議会議員との意見交換会

11月4日、山形県議会議員広報・広聴委員2名、会派推薦議員2名の計4名と学生13名の意見交換が行われました。県議会の説明のあと学生が質問を行いました。
「看護師などの不足について県として何か支援を考えているのか」、「若者の投票行動についてどう思うか」などの質問や、議員からの「若い人たちはどうすれば投票に行くのか」の質問に、「マスコミはマイナスなことばかりを強調して報道する。若者はそれを鵜呑みにせず投票に行かなければならない」などの意見が出されました。

11/14　丸山酒田市長へ要望書提出

11月14日、吉村学長、神田学部長が酒田市役所を訪問。地方創生を担う人材育成、産業振興を通した雇用の創出、若者の地元定着率の向上は、酒田市と本学の共通した課題であることから、酒田市と本学で協働で取り組む情報（IT）人材の育成を柱とした「酒田市産業振興寄附講座」設置の要望書を丸山市長に手渡しました。

11/25　Global Seminar
「詩を通して世界の文化に触れる夕べ」

11月25日、国際教養コースによる本年度2回目のグローバルセミナー「詩を通して世界の文化に触れる夕べ」が”Global Lounge”にて高校生2名、一般５名、学生6名、計13名の参加者を迎え開催されました。セミナーは国際教養コースの教員5名が全編英語で講義を行うもので、英語以外にもペルシャ語、中国語も交えたとても国際色豊かなセミナーとなりました。参加者からは「難しかったがまた是非やってもらいたい」「楽しかった」との声が聞かれました。

11/26　「酒田おもてなし隊」最優秀賞受賞

11月26日、経済産業省主催「社会人基礎力育成グランプリ北海道・東北地区大会」が仙台市 東北学院大学で行われ、本学の「酒田おもてなし隊」が出場しました。「酒田おもてなし隊」は「多様な地域団体と協働して取り組む「酒田おもてなし隊」の観光を切り口とした地域活性化」のタイトルで今までの活動・取り組みを発表し、見事“最優秀賞”を受賞しました。「酒田おもてなし隊」は北海道・東北地区代表として、2月20日に東京 拓殖大学で行われる全国大会に臨みます。
「おもてなし隊」の結果については、「経済産業省」および「社会人基礎力協議会」HPに掲載中です。
（経済産業省：http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/gp.html）
（社会人基礎力協議会：https://www.mda.ne.jp/kisoryoku/）
日経カレッジカフェには受賞メンバーの写真が掲載されています。
（http://college.nikkei.co.jp/article/89574213.html）

11/28　新田産業奨励賞記念講演会

11月28日、本学の公開講座でもある、「酒田市新田産業奨励賞記念講演会」が公益ホールにて大変盛況の中行われました。記念講演会は二部構成となっており、一部では本学客員教授で日本総合研究所会長の寺島実郎氏が「生き残る地域となるには～酒田港を通じて、これからの地域観光をどうするのか・大型クルーズ船寄港への期待～」との演題で講演。二部では同じく本学の客員教授で評論家の佐高信氏と寺島実郎氏との対談が行われました。お二方の話は、とても興味深く、これからの地方を考える良い機会となりました。

12/9『模擬体験を通じた実践的学習』②

12月9日、斉藤ゼミの学生7名は『模擬体験を通じた実践的学習』第２弾として、荘内銀行酒田営業部で金融業の模擬体験学習を行いました。はじめに荘内銀行の方から「銀行の仕事と役割」についての講義。
「銀行は『利子と利息の差』で利益を生み商売している。」との話も聞き、その後貸出業務についてシミュレーション体験を行いました。

12/18 「知の拠点庄内」第6回シンポジウム

12月１８日、鶴岡市先端研究産業支援センターレクチャーホールを会場に、「知の拠点庄内」第6回シンポジウム「海外からみた庄内～SHONAIはいいのぉ～」が開催されました。今回は本学が幹事校を務め、伊藤研究科長の開会挨拶で始まりました。講演は海外からこの庄内に来た方を中心に4名が行いました。本学からはジハン教授が「庄内ー秘めたる機会」と題して講演しました。その後、武田教授をコーディネーターに講演者4名によるパネルディスカッションが来場者を交え行われました。

12/19 大学院生『七窪思恩園』へ寄付

１２月１９日、粕谷宣昭さんが本学大学院生を代表して、１０月２２・２３日に行われた公翔祭での院生屋台「こうえきの大学院カレー」の売上げを鶴岡市七窪にある児童養護施設『七窪思恩園』に寄付しました。

広報誌タイトル募集について

創刊号で募集をいたしました、広報誌タイトルについて以下応募がありました。3月30日まで引続き募集させていただき、次号までに決定したいと思います。奮ってご応募ください。

〇Koeki Gazette　〇Koeki Journal　〇Koeki Digest　〇Koeki Review　〇広報『公益』　〇公益大編集部

教員異動

（昇 任）　平成28年10月1日付
教　授　ジハン・シャザダナイヤール　（准教授）

（退 職）　平成28年9月30日付
教　授　森　彰夫

平松元学部長へ名誉教授称号授与

11月21日、平松緑元学部長の長年に亘る功績を称え、 吉村学長から名誉教授の称号が授与されました。

行事予定（３・４月）

日　付	行　事　等	場　所
3月25日（土）	第13回　卒業式	公益ホール
	Farewell Party	カフェテリア
4月 3日（月）	新2年生　春学期ガイダンス　9:00～12:45 新3年生　春学期ガイダンス　9:00～12:35	301教室
4月 4日（火）	新4年生　春学期ガイダンス　13:00～15:30	301教室
4月 8日（土）	第17回　入学式	公益ホール

編集後記

広報誌2号を発行することができました。創刊号の反省から文字サイズ、行間、段組みを見直しました。少しは読みやすくなったのではと思っています。とはいえ、まだまだ文字が多いなぁと思っています。次号ではそこのところの改善を考えたいと思います。今回、広報誌発行にあたり取材にご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。今後ともご指導、ご意見を頂戴いただけます様お願い申し上げます。4月からは「第2期吉村プラン」が始まります。

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science
広報誌「Koeki-U. News」(仮)　No.2　2017.2　発行：広報誌発行担当　E-mail : koho@koeki-u.ac.jp
〒998-8580 酒田市飯森山三丁目5番地の1　TEL:0234－41－1111　FAX:0234－41－1133　http://www.koeki-u.ac.jp/
大学URL